

大和市の森林行政について



大和市は、神奈川県のほぼ中央にあり、都心から四十 km 圏内に位置しています。市域は南北に細長く、丘陵起伏がほとんどありません。

約二十七 km² という狭い市域に、三つの鉄道が東西南北に走り、八つの駅があります。また、道路網も国道一六号線、二四六号線及び四六七号線のほか県道四線が縦横に走り、東名高速道路横浜町田インターチェンジにも近いなど、交通の利便性に恵まれています。

恵まれた交通網と都心から一時間圏内という立地条件により、首都圏のベッドタウンとして急速に都市化が進み、現在では約二十二万人の人口を擁する都市に発展しました。高度成長期以降の急速な都市化に伴い、人口の増加、緑地面積の減少、自然環境の低下が顕著になっています。

本市の緑地は、東西に流れる境川、引地川の二本の河川に沿って、市街地を挟み込むように分布しています。これらの緑地は、主に河川に沿って残された斜面林、低地に広がる農地により構成されています。また、内陸部では、比較的小規模な農地や樹林地を見ることができますが、これらの緑地も、徐々に宅地化されている状況が続いています。減少する緑を保全するため、大和市では、市街化調整区域においては保全緑地制度、市街化調整区域においては保存樹林制度等を用いて、森林面積の確保

を図っています。

本市には保全緑地制度によって守られている、比較的多量のある緑地（大規模緑地）が複数あり、散策やバードウォッチング等に広く活用されており、地域の人々の生活に潤いを与えています。このうち、最も大きな緑地が「泉の森」です。



泉の森航空写真

「泉の森」は、北は旧国道二四六号線から南は東名高速道路まで、約四十二 ha の面積を持ち、国道二四六号線から北側は、特別緑地保全地区に指定されている緑地です。特別緑地保全地区内には水源池があり、湧き出た水は、全長二十一、三 km の引地川となり、相模湾に注いでいます。引地川の水源地の周囲にある樹林は、水源涵養林として保護されており、水と緑が一体となった豊かな自然環境が形成されています。また、「しらかしの池」と呼ばれる調整池の西側には、約一五八八 m² のシラカシ林が広がり、神奈川県の天然記念物に指定されています。

その他にも、クヌギ、コナラ、スギやヒノキ等の樹林が生い茂り、住宅街に残る貴重な緑地帯となっているとともに、ボランティアや「自然観察センター・しらかしのい文」によって野鳥観察会等の豊富な自然環境を生かした行事等が開催され、自然と親しむ場としても利用されています。また、散策道やベンチの整備もされ、地域の人々の憩いの場となっています。

本市では、県央地域に残された貴重な緑を保全、創造、活用するため、平成十八年度、十九年度の二カ年で「緑の基本計画」の改定を行っています。平成十八年度は、公募等により集まった総勢十二名のメンバーの方と共に、ワークショップ形式で意見を出し合い、緑の未来像をまとめました。

平成十九年度は、引き続きこの「緑の基本計画」を実現するための方策を検討し、新しい「緑の基本計画」を作り上げていきたいと考えています。



しらかしの池

(大和市環境部 水と緑課)